

高齢者施設でのコロナ感染対策強化を

丹木けんじ市議 一般質問②

コロナ感染第8波では、県内でも多くの方が亡くなられ、その平均年齢は約86歳でした。市内の高齢者施設でも12月から1月に33件のクラスターが発生。398人の感染者が出たこと、直接の死因ではなくてもコロナ感染による全身状



丹木けんじ市議員

況の悪化などで亡くなられた方もあったことを指摘し、「医療機関で受け入れが叶わず、感染者の施設での留め置き事例があったのか、その際医療支援がどのように行われたか」について尋ねました。また、施設での抗原検査キットの活用が不十分だったとの県の調査結果や、施設職員さんから伺った現場でのキットの活用状況を述べて「施設における抗原検査キットの活用は十分であったのか、適切な活用方法は周知徹底されているのか」と質しました。松原正健康福祉部長は「県広域入院調整部により、入院が適当と判断された方で入院できなかった事例は発生していない」と回答。抗原定性検査キットの活用についても「検査実施を促す通知を2度にわたり発出し、2月18日時点で多くの施設に配布されている」と答弁しました。

60年超の原発稼働ゆるぎられない

たちばなふみ市議 一般質問②

たちばなふみ市議は2月議会で5項目の一般質問をおこないました。原発問題について報告します。



たちばなふみ市議員

たちばな市議は、60年を超える原発稼働を含む政府の基本方針転換について、原子力規制委員会が、異例の多数決で60年を超える原発の運転を可能にする制度見直し案を決めたことと指摘しました。賛成した委員の「締め切りを守らないといけないとせか

誰もが大切にされる松江へ

福祉の増進・くらし・教育第一

原発ゼロ・子どもの意見尊重を

2023年度予算反対討論

2月議会最終日の本会議において、共産党市議団を代表してたちばなふみ市議が討論にたちました。令和5年度予算に関して内容を紹介します。

子育ての負担軽減を

地方自治法の行政の役割は「住民の生命と財産を守る」こととして「福祉の増進」です。3年を超えるコロナ禍と物価の高騰で市民の暮らしが痛んでいます。私共の行った昨年末の市民アンケートでも85%の方が生活が苦しくなつたと回答しました。国民健康保険においては加入世帯の8世帯に1世帯が保険料を払えず、保険証のとりあげなどがおきています。生活困窮者が社会保障制度から排除されることはあってはなりません。

子どもの権利尊重を

また、子ども子育て部の新設にあたり、「子どもの視点にたった」子育て政策を展開するとあります。子ども家庭庁設置法、子ども基本法では「子どもの意見表明機会、参画の確保、意見の尊重、その最善の利益を優先して考慮することが基本」であると明記されました。学校や学びの場でも、校則や、制服の決定や改定、部活動のあり方など、あらゆる場面で子ども参加の仕組みづくりや十分な予算の確保、子どもの意見表明を当たり前にすることを松江市政にも求めます。

原発のない安心の松江を

住み続けられる持続可能な松江市へ、一番の弊害となるのが、島根原発の再稼働です。先般12年目の3月11日を迎えました。福島事故の原因の分析がすすみ、12年たつて新たな事実が明らかになるなど、



会派を代表して討論するたちばな市議